郡山市立富田中学校
学校だより
No.42
手をたずさえて

“富中PRIDE”～自信と誇り～
■ 自ら学ぶ生徒
■ 正しく行動する生徒
■ 健康でたくましい生徒

平成３１年１月１１日（金）発行
【発行責任者】郡山市立富田中学校長　熊 坂　　洋

新進気鋭のサクソフォン奏者　上野耕平氏来校決定!!

1月23日(水) 本校で『上野氏によるワークショップ(講習会)』開催

郡山市が芸術の持つ力を活かしたまちづくりを進めるため、国際舞台で活躍する芸術家や教育者、研究者を育成・輩出する総合芸術大学である東京藝術大学と連携して「楽都郡山」の未来を担う青少年や指導者の育成を図ることを目的として実施される東京藝術大学と郡山市の連携事業『サクソフォン奏者上野耕平氏によるワークショップ（講習会）』が本校で開催されることになりました。

開催日時は、**平成31年１月23日（水）６校時（14:35～15:25）**で、吹奏楽部の生徒がレッスンを受けた後に上野氏の模範演奏を全校生で聴講することになります。上野耕平氏は日本を代表する新進気鋭の若手サクソフォン奏者で、国内外の数々のコンクールやコンサートで高い評価を得て、演奏活動をはじめ、さまざまな分野で活躍されている方です。ある有名な指揮者に「耕平は１音を聴いただけで、ただ者ではないと思った！」、「サクソフォンのこんな音を聴いた事がない。目が飛び出るほど驚いた！」と言わしめるほどの実力の持ち主です。彼の生の演奏を聴くことはかなり難しいと言われています。彼のワークショップ（講習会）の場として本校が選ばれたのはとても光栄なことです。吹奏楽部の生徒達にとっても大きな財産となるに違いありません。そして、全校生で“本物”に触れ、“本物”を堪能したいと思います。この日は本校でのワークショップの後、18:00より中央公民館もしくは公会堂において、市内の小・中学生、高校生を招いての「サクソフォン教室（上野氏の模範演奏も含む）」も開催される予定です。

上野耕平氏プロフィール

茨城県東海村出身。８歳からサックスを始め、東京藝術大学器楽科を卒業。これまでに須川展也、鶴飼奈民、原博巳の各氏に師事。第28回日本管打楽器コンクールサクソフォン部門において、史上最年少で第１位ならびに特別大賞を受賞。2014年11月、第６回アドルフ・サックス国際コンクールにおいて、第２位を受賞。現地メディアを通じて日本でもそのニュースが話題になる。また、スコットランドにて行われた第16回世界サクソフォンコングレスでは、ソリストとして出場し、世界の大御所たちから大喝采を浴びた。2015年９月の日本フィルハーモニー交響楽団定期公演に指揮者の山田和樹氏により大抜擢。この公演は、クラシックサクソフォンの可能性が最大限に引き出され、好評を博す。また2016年４月のＢ→Ｃ公演では、全曲無伴奏で挑戦し高評価を得ている。

ＣＤデビューは2014年『アドルフに告ぐ』、2015年にはコンサートマスターを務める、ぱんだウインドオーケストラのＣＤをリリース。 現在、演奏活動のみならず「題名のない音楽会」、「報道ステーション」、「情熱大陸」等メディアにも多く出演している。また2016年４月からは昭和音楽大学の非常勤講師として後進の指導にあたっている。

《The Rev Saxophone Quartet》ソプラノサクソフォン奏者、ぱんだウインドオーケストラコンサートマスター。

この上野氏のワークショップは、郡山市音楽アドバイザーの佐藤守廣先生のご尽力によって実現されるものです。中学校の音楽教師としてご活躍され、橋小学校校長を最後に退職された佐藤先生ですが、市内小・中・高校・一般の合唱や合奏・オーケストラの指揮や指導など、幅広い活動を展開されています。本校の合唱部や吹奏楽部も指導を受けています。その佐藤先生から、上野氏のワークショップを是非富中で開催してみてはどうかというお話を頂き、実現することになりました。ワークショップ本番では、その佐藤先生に進行を務めていただくことにもなっています。また佐藤先生には、裏面に掲載しました『新春の第九』に本校合唱部が出演のお誘いを受けた経緯もあります。佐藤先生には本当に感謝しております。

満場の喝采を受けた大迫力の“第九”演奏でした！

“新春の第九”～「みんなで歌う第九の会」第6回特別演奏会に本校合唱部も参加　1/6（日）

東日本大震災からの復興を祈念する「みんなで歌う第九の会」の第６回特別演奏会“新春の第九”が、１月６日（日）、けんしん郡山文化センターで開催されました。本市出身のプロの演奏家や音大生等、約100人で編成されたオーケストラ、４名のプロの声楽家、さらに小学生から80代までの男女約４70人からなる大合唱団が出演しました。ベートーベン作曲の「交響曲第九番合唱付」を第一楽章から演奏し、最後の第四楽章では合唱が入り、大迫力の「歓喜の歌」を会場一杯に響かせました。本校合唱部の生徒達（特設合唱部員も含む）もこの大合唱団に加わり、精一杯歌いきることができました。生徒達にとって、何よりあのすばらしい場に演奏者として身を置くことができたことは貴重な経験になったと思います。そして、演奏終了後、出演者たちは「ブラボー！」、「ブラボー！」と満場の喝采を浴びました。

復興を願い、「歓喜の歌」を高らかに響かせる参加者

歓喜の歌 楽都に響く

郡山で「新春の第九」特別演奏会

東日本大震災と東京電力福島第一原発事故からの復興を祈念する「みんなで歌う第九の会」の第六回特別演奏会「新春の第九」は六日、郡山市のけんしん郡山文化センターで開かれた。市、市教委、福島民報社などの後援。小学生から八十代までの男女約四百七十人による大合唱団、市内出身のプロの演奏家や音大生、市内の愛好者ら約百人で特別編成したオーケストラが出演した。プロの声楽家も共演した。

ベートーベン作曲の「交響曲第九番合唱付」を第一楽章から奏でた。第四楽章からは合唱が入り、復興への願いを込めて荘厳な「歓喜の歌」を響かせた。市内外の音楽ファンら約二千人が来場し、会場からは大きな拍手が湧き起こった。

同会は二〇一三（平成二十五）年に市内の音楽関係者で結成。被災した県民の心を勇気づけようと毎年、「第九」の演奏会を開いている。

『福島民報』
１月７日（月）朝刊

「みんなで歌う第九の会」とは、東日本大震災からの復興の意欲を音楽で示そう！第九のもつ友愛こそ絆！と“第九を歌うために集まった合唱団”です。

2013年12月に第１回演奏会が行われ、2018年1月の第５回演奏会では400人による大演奏会となりました。そして、今年第６回の演奏会では、それ以上の500人近くの大合唱団となりました。今回初めて演奏を聴きましたが、鳥肌が立つほどの繊細かつダイナミックな演奏が繰り広げられ、最後の第四楽章でのオーケストラと合唱のコラボレーションはまさに圧巻でした。

“新春の第九”に参加して…

参加者の中から、２名の生徒に感想を書いてもらいました。

◆ 今回初めて“第九”の演奏会に参加しました。参加しての感想は２つあります。１つ目は、４７０人という大人数の中の一人として歌えたことです。「みんなで歌う第九の会」の方々と心を一つにして歌えたことがとても楽しかったです。２つ目は、オーケストラの演奏のすごさです。あんなに長い曲なのに、１回も失敗しないなんてすごいと思いました。オーケストラの方々と第九の会の方々のおかげで、自分も楽しく気持ちよく歌うことができました。また一つ良い経験ができました。

（２年　齊藤　翔）

◆ 年末になるとよく耳にしていた「第九」を１００名のオーケストラによる演奏にのって、４７０名の大合唱団の方々と合唱をするという、とても貴重な経験をすることができて嬉しかったです。小学生から８０歳代の方まで年齢はさまざまでしたが、リハーサルの時からみんな笑顔で楽しく、そして緊張感たっぷりの時間を過ごすことができました。この曲を歌っていると、「やっぱり迫力があってかっこいいな」と改めて実感することができました。最初はドイツ語が難しく、歌えるのかとても不安でしたが、本番ではみんなで練習の成果を発揮することができました。そして、このような素晴らしいステージに立つことができて本当に良かったと思います。今後もこのような機会があったら、また歌いたいと思いました。（２年　山田恋奈）